

『大腸癌に関する多施設研究—大腸癌における新たな病理的指標と Nomogram を用いた予後予測システムの確立』に関するお知らせとお願い

大腸癌の手術後に再発を起こす確率には、さまざまな因子が複合的に影響しますが、現在臨床的に重視されている指標は深達度とリンパ節転移からなる進行度分類です。しかしながら治療選択の指標は進行度分類では十分とは言い難く、転移・再発の危険性をより鋭敏に反映する悪性度分類の確立が求められています。

防衛医科大学校外科学教室では「大腸癌の手術後の再発リスクを計算するシステム」を開発することを目的に、他施設との共同研究を開始しました。高転移能を鋭敏に反映する臨床的因子や病理組織学的因子を網羅的に検索し、実臨床で評価しやすい再発指標を確立することを目的としています。

調査を行う対象は、防衛医科大学校をはじめ、東京医科歯科大学、愛知県がんセンター中央病院、帝京大学、国立がん研究センター中央病院、東京大学において、2007年1月～2010年12月に、手術を受けられたステージⅠ～Ⅲ大腸癌の患者さんです。調査項目は、手術時年齢、性別、病変の部位、術前の腫瘍マーカー値、ステージなどの病状、リンパ節郭清度、術後補助化学療法などの治療に関する情報、再発の有無、再発の部位などの手術後の経過に関する情報に加えて、病理組織学的所見を再評価した情報です。調査データは、個人を特定する情報をいっさい含まない形で集積され、このデータをもとに、個々の患者さんの病状や受けた治療などの因子から、予想される「再発リスク」を計算するシステムを作ります。(ノモグラムという方法を使います)。このようなシステムが完成すれば、現在よりも高い精度で個々の患者さんの再発リスクを予想することができ、手術後に追加の抗癌剤治療（補助化学療法）を行うかどうかなどの治療方針を決める際に、大変役に立つ情報となります。

この調査で集められるデータは、あなたが治療を受けた医療機関にて保管されているカルテや病理標本に存在する情報のみを使用し、この調査により新たな検査や負担は発生しません。この研究の結果は、学術雑誌や学会にて発表し、大腸癌診療の進歩に役立てていくこととなりますが、公表する際にも個人情報を使用されることはありません。この調査は「疫学研究に関する倫理指針」を遵守して行います。防衛医科大学校の倫理委員会において、この調査の対象となった方の不利益にならないことや医学の発展に役立つ情報が得られることが確認され、承認を受けています。調査の趣旨をご理解いただき、この調査にご了解を賜りますようお願いいたします。

該当の時期に大腸癌の手術を受けられた患者さんの中で、ご自身の治療経過などの臨床データを研究に使わないでほしい、というご希望があれば、下記の連絡先までご連絡をいただけますようお願いいたします。なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、診療には全く何の影響もなく、いかなる意味においても不利益をこうむることはありません。

連絡先：防衛医科大学校外科学講座 上野 秀樹

TEL 04-2995-1511（内線 2356）